

# 沼田市地域公共交通計画評価指標の進捗報告

目標に応じた評価指標の達成状況や取組の進捗状況を確認し、PDCAサイクル【計画（Plan）→実施（Do）→評価（Check）→見直し（Action）】による計画の進捗管理を行う。

具体的には、事業内容の進捗状況は本計画で設定した「評価指標」に基づき管理し、定量的・客観的に分析・評価し、かつ、国の制度の変更や社会経済状況の変化を勘案しつつ、必要に応じて法定協議会を開催し、柔軟に見直しを実施。

## ■基本方針における目標の評価指標進捗報告

目標	評価指標	基準値 (令和5年度)	現況値 (令和7年度)	目標値 (令和10年度)
<b>基本方針1 地域特性に応じた持続可能な地域公共交通ネットワークの構築</b>				
【目標1】 市街地内の移動利便性の向上	評価指標① Aエリアでのデマンド交通予約時の予約候補返却率(※1)	78.7%	73.58% (前年度 68.53%)	80%
	指標② Aエリアの路線バス運行本数	民間路線：88本 ぬまくる：26本	民間路線：67本 ぬまくる：26本	民間路線：88本 ぬまくる：26本
【目標2】 郊外部・山間部の対市街地輸送の確立	評価指標① B・Cエリアの路線バス運行本数	民間路線：43本 ぬまくる：4本	民間路線：43本 ぬまくる：4本	民間路線：43本 ぬまくる：4本
	評価指標② B・Cエリアの路線バス年間利用者数	200,210人 (令和3年)	199,172人	200,210人
【目標3】 環境にやさしいまちづくりへの貢献	評価指標① モビリティ・マネジメントの実施件数	0件	2件	(5ヶ年累計) 5件
	評価指標② 省エネルギー設備導入車両・施設数	車両：0台 施設：0件	車両：0台 施設：0件	車両：2台 施設：2件

【目標４】 広域交通との アクセス性向上	評価指標① 沼田駅における ＪＲ上越線との 接続率（※２）	バス⇒上越線 56% 上越線⇒バス 75% (令和４年１０月)	バス⇒上越線 66.7% 上越線⇒バス 77.8% (令和８年３月)	75%
	評価指標② 地域間交通にお ける上毛高原駅 での新幹線との 接続率（※２）	バス⇒新幹線 46.7% 新幹線⇒バス 47.6% (令和４年１０月)	バス⇒新幹線 30% 新幹線⇒バス 20% (令和８年３月)	45%
基本方針２ 快適性の高い利用環境の整備と、利用促進の積極的実施				
【目標１】 公共交通の利用 環境の向上	評価指標① ベンチ・照明の 設置等、待合環 境改善を図った バス停留所・乗 降場所数	0 か所	0 か所	5 か所
	評価指標② 英語表記を併記 したバス停留 所・乗降場所数	0 か所	0 か所	9 か所
【目標２】 デマンド交通 の輸送能力・予 約可能時間の 拡大	評価指標① 市全域でのデマ ンド交通予約時 の予約候補返却 率	78%	72.73%	80%
	評価指標② 接続拠点の整備 数	0 か所	0 か所	2 か所
【目標３】 地域住民への 利用促進・利用 機会の創出	評価指標① モビリティ・マネジメントの実施件数【再掲】			
	評価指標② 民間事業者との 連携施策数	0 件	2 件	(5 か年累計) 10 件
基本方針３ すべての地域を見捨てない、充実した公共交通網の検討				
【目標１】 郊外部・山間部 における公共	評価指標① 路線バス鎌田線 運行本数	43 本	43 本	43 本

交通サービスの維持・確保	評価指標② バス停留所・接続拠点（新設）へのデマンド交通年間利用者数	—	—	100 人
【目標 2】 多様な輸送サービスの活用検討	評価指標① 民間送迎・輸送サービスの活用に向けて運行者と協議を行った案件数	0 件	1 件	(5 か年累計) 2 件
	評価指標② スクールバスの運行見直しについて、関係者と協議を行った案件数	0 件	2 件	(5 か年累計) 2 件

※ 1 < 予約候補返却率 >

デマンド交通予約の際、希望日時に基づく予約照会に対して、予約できる候補を提示できた回数の割合。

※ 2 < 接続率 >

鉄道⇄バスに乗り換える際、待合時間が 20 分以内で乗継ぎ可能な便数の割合。

「ぬまくる」における評価指標

#### ■ぬまくるにおける評価指標進捗報告

評価指標	基準値 (令和 5 年度)	現況値 (令和 7 年度)	目標値 (令和 10 年度)
「ぬまくる」の年間利用者数	33,000 人	35,644 人	38,000 人
「ぬまくる」の収支率	8%	13.3%	11%
「ぬまくる」運行に係る市負担額	73,838 千円	70,162 千円	71,338 千円

## 総括

基本方針1「地域特性に応じた持続可能な地域公共交通ネットワークの構築」については、Aエリアにおけるデマンド交通予約時の予約候補返却率が前年度より改善したものの、依然として目標値には届いておらず、利便性向上に向けた対応が課題となっている。一方で、B・Cエリアの路線バス運行本数は維持され、地域交通ネットワークの確保が図られた。広域交通とのアクセス性についても、一部指標で改善傾向がみられたものの、引き続き改善に向けた検討が必要である。

基本方針2「快適性の高い利用環境の整備と、利用促進の積極的实施」については、バスの乗り方教室の実施やイベントへの出展等により、公共交通の利用促進を図った。一方で、待合環境改善や接続拠点整備など、利用環境向上に係る取組については未実施となっており、今後の課題となっている。

基本方針3「すべての地域を見捨てない、充実した公共交通網の検討」については、民間送迎・輸送サービスの活用やスクールバス運行見直しに関する協議が進められ、多様な輸送サービスの活用に向けた検討が継続して実施された。

また、ぬまくるにおける評価指標の進捗状況については、年間利用者数は前年度から減少したものの、収支率については向上し、目標値を上回る結果となった。さらに、市負担額も前年度より減少しており、効率的な運行による持続可能な公共交通の維持が図られた。